



医療法人財団 織本病院 広報誌

7

月刊 織本

2019年7月1日 vol.299

発 行 医療法人財団 織本病院
 印 刷 〒 204-0002
 東京都清瀬市旭が丘 1-261
 TEL 042-491-2121
 URL <https://orimoto-hp.com/>
 発行人 高木 由利



オダマキ

第64回 日本透析医学会学術集会



理事長 高木 由利

朝起きると、ウッドデッキに並んだ小さなお花達が雨から恵みを受けたしずくをもらい、ニコニコ笑って私に“おはよう”と言ってくれます。

* * *

6月28日（金）、29日（土）、30日（日）はパシフィコ横浜で恒例の学会が開かれました。今年も多摩CKD超低たんぱく食治療研究会は巨大な展示ホールの中で企業ブースに出展しました。

4年前に初めて出展した時は、企業ブースなので製薬メーカーなどの会社の展示が主体で、純粹に医学的なアピールをしたのは多摩CKD超低たんぱく食治療研究会、腎不全食の生みの親、食事療法サポートセンターと日本腎臓病協議会だけでした。しかし今年は、私達以外に7ヶ所のブースが慢性腎不全・透析医療の現状と課題を語る展示の出展で、更に海外からの出展も2つありました。このことは私を大いに勇気づけてくれました。今まで学会発表をしても、学会運営の中心である大学教授達にとって興味のないテーマだったらしく、私の訴えや真実が伝わりませんでした。しかし、この企業ブースはある程度の基本的ルールはあります、私達のメインテーマである1人でも透析

を先延ばしにしていく唯一の治療法“超低たんぱく食治療”を思いきり語ることができるだけでなく、より多くの方々の目に留まり興味を引くことができたのです。

前回まではドクターと栄養士の方々がブースに立ち寄り質問をして下さっていましたが、今回は看護師の方々の質問が多く、またその悩みを聞かせて頂きアドバイスをするチャンスに恵まれました。これは私達にとって画期的なことでした。織本病院では約20年間、多摩CKD超低たんぱく食治療研究会は10年間、そしてブース出展は足掛け5年目に入りました。語り続けることの大切さの裏には、真実を伝えたい情熱と医学があるからこそできることだと痛感しました。





6月25日の院内学会で発表された演題の中から、一般演題2題を紹介させて頂きます。

骨塩定量検査 ～当院での骨塩定量検査は 知っていますか？～

放射線科 藤巻 武義



今年の院内学会で放射線科からは「骨塩定量検査」について発表させて頂きました。

はじめに高齢化の現状ですが、日本の総人口は1億2,671万人となっており、その中でも65歳以上人口は3,561万1千人（約28%）です。65歳以上人口の増加のピークは2042年で3,935万人（約31%）になると予想されています。高齢化に伴い増加すると言われている疾患が、大腿頸部骨折や脊椎圧迫骨折です。これらの予防には骨粗鬆症の治療や転倒しにくい環境を整えることが大切です。

皆様は、「骨塩定量検査」を御存じでしょうか？骨塩定量検査とは、エネルギーの異なる二種類のX線で骨の構成要素であるカルシウムやミネラル成分の量（骨密度）を測定し、骨粗鬆症の診断に用いる検査です。若年成人（20～44歳）の平均値を基準とした割合値を指標として示します。

検査方法は椅子に座って非利き手でレバーを握り、20秒ほど測定します。準備を含めても5分程度で終わります。予約なしでも



検査可能で検査結果も即提示でき、被ばくも少ないので安心して検査を受けて頂けます。また椅子に座れなくとも車イスでしたら検査は可能です。

骨粗鬆症の予防・治療は以下の通りになります。

① 食事療法

⇒カルシウム（乳製品・大豆製品・魚介類・緑黄色野菜・海草など）を多く摂る。

② 薬物療法

⇒カルシウム製剤・骨形成促進剤・骨破壊抑制剤など。

③ 運動療法

⇒ウォーキング・水泳など無理のない運動を、毎日30分～1時間程度続ける。

骨塩量は一般に20代でピークとなり、その後は徐々に減少していきます。特に女性の場合は正常でも更年期以降、毎年1%ずつカルシウム量が減ると言われています。各個人が普段から健診などで骨塩定量検査を受け、現在の自分の骨年齢を知り、上記のような予防や治療へと繋げることが大切です。

何かご質問などがございましたら、私達放射線技師に気軽に声掛けください。

病院の水源についての検証

施設管理課 松井 洋



病院では透析用水、清潔管理、お食事などあらゆる場面で「安全・安心な水」が必要です。「安全・安

心な水」のために行っている取組みや設備の特徴について発表しました。

【安全・安心な水の確保のために】

当院は井戸水を使用しています。国が定める厳格な水質基準を守るために水質検査、消毒、設備の清掃を実施しています。

【井戸には利点がある】

当院の井戸は深さ130m以上の深井戸です。岩盤の下の水を汲み上げるので土壌汚染の影響を受けづらく水質が安定しています。2011年に発生した原発事故によって水道水から放射性物質が検出され大きな混乱が起きましたが、当院の井戸水からは検出されませんでした。

【井戸は災害発生時に頼りになる】

上水道は地震発生時に水道管の破断などによって断水が発生します。しかし当院は井戸があるため災害時にも水の供給が期待できます。

【当院は井戸と水道水の二段構え】

当院は井戸水だけでなく上水道も使用できる二段構えの設備があります。

【終わりに】

安全・安心な医療の実現のために、医療現場の水面下ではこうした安全のための様々な取組みが行われている事を知っていただけたらと思います。

第56回 織本病院 院内学会 演題**一般演題**

- 長時間透析への試み 臨床工学科 木村 亮
- 人間ドック 2018年度実績 医事課 村上 綾花
- 骨塩定量検査 放射線科 藤巻 武義
- 慢性腎臓病患者 教育入院の概要～明るい食事療法への道しるべ～ 栄養科 小澤 牧子
- 新化する地域医療連携 2019～地域に根ざした、頼りになる「かかりつけ医」を目指して～ 医事課 濱田 国男
- 病院の水源についての検証 施設管理課 松井 洋
- ナファモスタットメシリ酸塩注によるアナフィラキシーショックの事例から学んだこと 薬局 外山 加奈
- 「腎不全患者の元気な日常」～織本病院の腎不全外来に 7年間通院している患者の症例から学んだこと～ 栄養科 山崎 紗也加
- NVF®-M の性能評価 臨床工学科 佐藤 寛

特別講演

- 運動の役割はエネルギー消費のみならず骨格筋からの内分泌に注目！
その運動療法とは何かを見る化する 東京医科大学八王子医療センター
糖尿病・内分泌・代謝内科
理学療法士 天川 淑宏 先生



総合防災訓練を実施しました!!

2019年6月13日（木）、清瀬消防署と合同の総合防災訓練を実施しました。

病院職員は、初期消火・通報・避難誘導訓練を行いました。その後、清瀬消防署員による、はしご車での屋上からの救助訓練を行いました。今回の訓練で明らかになった課題を改善すると共に、災害発生時の更なる体制強化にこれからも取り組んで参ります。



2019年
8月10日(土)
13:30開場 14:00開演
織本病院 2F ラウンジ
入場無料

大友 太郎 フルートコンサート



ピアノ
大友 薫子



フルート
村瀬 忠 (血液内科医)



フルート
大友 太郎 (国立音楽大学教授)

海外にて種々の名誉ある賞を受賞し、ドイツバッハソリストンの一員として、またソリストとして数多くの演奏会、音楽祭、放送等で活躍した。帰国後もソリストとして、バロックから現代までの幅広い分野の演奏、またクラシックのみならず邦楽器とのアンサンブル、オーケストラプレイヤーとしても活躍。現在国立音楽大学等で教鞭をとる傍ら、各地で後進の指導にあたり、多くの個性ある優秀な人材を世に送り出している。

- アジアフルート連盟常任理事（日本本部副本部長）
- 日本フルート協会理事

【お問合せ】 医療法人財団 織本病院 〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘1-261 042-491-2121